

改正省エネ基準の 最上位等級取得

ウッドフレンズ

ウッドフレンズ（名古屋市長）は14日、4月1日以降に評価認定を受ける同社住宅が、改正省エネルギー対策等級の最上位等級（断熱等性能等級5）を取得したと発表した。同社住宅の大半がこれに該当するという。また、対象者や物件の条件によって補助金が受けられる国土交通省「こどもみらい住宅支援事業」の事業者登録も完了した。

同社住宅の設計は、

2019年8月に外皮平均熱貫流率（UA値）0.6以下を採用し、これまでZEHと同等水準の住宅を供給してきた。今年3月末時点で、断熱等性能等級5をクリアする住宅は2200棟を超えている。

また、昨年量産化し、採用を拡大しているオリジナルの木製（Rウッド）サッシ「ウインドウウッド」の気密性と熱貫流率は、同社によるとアルミサッシの性能を上回る。中・長期で電力料金など光熱費の上昇が懸念されるなか、省エネルギー性能を有する住宅の提供で差別化を図る。

こどもみらい住宅支援事業は、子育て世代ほかが一定の性能を有する住宅を新たに取得、及びリフォームする際の補助事業で、同社が手掛ける長期優良住宅の場合80万円の補助が受けられる。